

大逆転劇 大宮生歓喜の叫び

宮崎西高校に競り勝ち三位入賞

言ノ葉

第9号
2009年5月15日
発行

発行
宮崎大学
宮崎高等
新聞部



宮崎西高校に勝利し喜び合う大宮高校の野球部員

白熱を見せる四校定期戦

去る五月八日、宮崎大宮高校、宮崎西高校、宮崎北高校、宮崎南高校の四校による野球大会、第三十回四校定期戦が「サンマリンスタジアム」及び「ひむかスタジアム」で行われた。
試合当日は天候にも恵まれ、四校の野球部は熱い戦いを繰り広げた。
試合は全部で四試合行われ、我が宮崎大宮高校は第一試合と三・四位決定戦に出場した。第一試合では惜しくも宮崎南高校に敗北したが、三・四位決定戦では宮崎西高校に最終回で逆転し、勝利を収めた。

華麗な逆転勝利を収める

午前中に行われた一回戦は、宮崎南高校を相手に再三のチャンスをもたに出来ず、九回裏に一点を奪われて惜敗であった。
午後の三位決定戦の相手は昨年の四校定期戦の一回戦で敗れた宮崎西高校。午前中の重い空気を残したまま挑んだ試合であった。



サヨナラの犠牲フライを放つ菊池選手

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
宮崎西	0	0	0	0	1	0	3	0	4
宮崎大宮	0	0	0	0	0	0	3	2×	5

トに抑えられていた宮崎西打線だったが、この回の先頭打者がレフトへの二塁打で出塁。その後星原選手も粘り二死一、二塁とし、次の打者をショート後方へのフライでピンチを乗り越えたかに見えたが、ここでサンマリノ球場特有の強風が吹き込

均衝が破れたのは五回表。ここまで星原選手にノーヒットに抑えられていた宮崎西打線だったが、この回の先頭打者がレフトへの二塁打で出塁。その後星原選手も粘り二死一、二塁とし、次の打者をショート後方へのフライでピンチを乗り越えたかに見えたが、ここでサンマリノ球場特有の強風が吹き込

み、このフライを落球。二塁走者が還り一点を先制された。宮崎西は七回にも、ワイルドピッチなど緊張の糸が切れたいような大宮の守備陣に付け込み、四本の安打を絡めて三点を追加。〇対四となり大宮のベンチやスタンドには敗色ムードが流れた。しかし、ここから大宮が驚異的な粘りを見せて。その裏、先頭の代打・柚木崎浩史選手がレフトへの二塁打で打線に火をつける。一死後、前の回に星原をリリーフした菊池耕佑選手もレフトオーバーの二塁打を放ち、まず一点を返した。二死後、吉野竜治選手がセカンドに平凡なフライを打ち上げてしまうが、今度は強風が大宮に味方し、これを落球。一点目を奪った。続く井戸川勇介選手にも意地のタイムリーヒットが出て、一気に一点差まで詰め寄った。

四校定期戦の規定（時間制限）により八回が最終回となり迎えた八回裏。二つの四球とワイルドピッチで一死二、三塁と攻めたて、ここで橋口大佑選手が前の試合の屈辱を晴らすかのようなライトへのタイムリーヒットを放ち同点。続く菊池選手のセンターへのサヨナラ犠牲フライによって大宮が劇的な逆転勝利を収めた。（解説・守永先生）
最後に、応援団や吹奏楽部を始めとした全校生徒の皆さん、並びに保護者の皆様方のご声援、まことにありがとうございます。年間の公式戦、また練習試合も含めてこのように大逆転勝利は収めていません。これも皆様のご声援、後押しがあったからに違いありません。今回の四校定期戦の勢いに乗り、七月十一日に開幕する夏の大会でも大宮旋風を巻き起こしたいと思っております。これからも声援よろしくお願ひします。（守永先生）

生徒インタビュー

・全校生徒や生徒会がスムーズに動いていて良かった（南高校生徒）
・お祭り気分だった。面白くて楽しむことが出来た。野球にあまり詳しくなくても、雰囲気だけでも楽しむことが出来る（北高校生徒）
・いつも先輩たちが練習していて、すごくそれを応援したいという気持ちがあった。応援も頑張っているけれど、今年はお茶配りに初めてだったので、別の形でも応援したい（西高校附属中生徒）
・応援賞が新しく入って面白くなってきたし、去年以上に野球も盛り上がった。とても興奮させられる試合だった（大宮高校生徒）

応援団

正規の応援団は朝の五時から集合しました。とにかく勝ってほしいという気持ちでいっぱいでした。応援をする場所が階段の上とかでやりづらいですけれど、野球部の為であればつらさは気にならないです。絶対に声を大きく出せるようにしています。応援歌やコンパットなどの応援が好きで、大きな声で精一杯応援が出来たのではないかと思います。（団長談）



応援団も頑張りを見せた